

精神障害者保健福祉手帳用診断書

氏名			
	年	月	日生(歳)
住所			
1 病名 <small>(ICDコードは、右の病名と対応するF00~F99, G40のいずれかを記載)</small>	(1) 主たる精神障害 _____ ICDコード (F <input type="text"/> , G <input type="text"/>)		
	(2) 従たる精神障害 _____ ICDコード (F <input type="text"/> , G <input type="text"/>)		
	(3) 身体合併症 _____ 身体障害者手帳 (有・無・不明, 等級)		
2 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日 _____ 年 月 日		
	診断書作成医療機関の初診年月日 _____ 年 月 日		
3 発病から現在までの病歴及び治療の経過, 内容 <small>(推定発病年月, 発病状況, 初発症状, 治療の経過, 治療内容を記載する)</small>	(推定発病時期 _____ 年 _____ 月頃)		
	* 器質性精神障害(認知症を除く)の場合, 発病の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 : _____ , _____ 年 月 日)		
4 現在の病状, 状態像等 (該当する項目を○で囲む)			
(1) 抑うつ状態 1 思考・運動抑制 2 易刺激性, 興奮 3 憂うつ気分 4 その他(_____)			
(2) 躁状態 1 行為心迫 2 多弁 3 感情高揚・易刺激性 4 その他(_____)			
(3) 幻覚妄想状態等 1 幻覚 2 妄想 3 連合弛緩・滅裂思考 4 その他(_____)			
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態 1 興奮 2 昏迷 3 拒絶 4 その他(_____)			
(5) 統合失調症等残遺状態 1 自閉 2 感情平板化 3 意欲の減退 4 その他(_____)			
(6) 情動及び行動の障害 1 爆発性 2 暴力・衝動行為 3 多動 4 食行動の異常 5 チック・汚言 6 その他(_____)			
(7) 不安及び不穏 1 強度の不安・恐怖感 2 強迫体験 3 心的外傷に関連する症状 4 解離・転換症状 5 その他(_____)			
(8) てんかん発作等(けいれん及び意識障害) 1 てんかん発作 発作型(_____) 頻度(_____) 最終発作(_____ 年 月 日) 2 意識障害 3 その他(_____)			
(9) 精神作用物質の乱用及び依存等 1 アルコール 2 覚醒剤 3 有機溶剤 4 その他(_____) ア 乱用 イ 依存 ウ 残遺性・遅発性精神病性障害(状態像を該当項目に再掲すること) エ その他(_____) 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合, その期間 _____ 年 _____ 月から)			
(10) 知能・記憶・学習・注意の障害 1 知能障害(精神遅滞) ア 軽度 イ 中度 ウ 重度 療育手帳(有・無・不明, 等級 _____) 2 認知症 3 その他の記憶障害(_____) 4 学習の困難 ア 読み イ 書き ウ 算数 エ その他(_____) 5 遂行機能障害 6 注意障害 7 その他(_____)			
(11) 広汎性発達障害関連症状 1 相互的な社会関係の質的障害 2 コミュニケーションのパターンにおける質的障害 3 限定した常同的で反復的な関心と活動 4 その他(_____)			
(12) その他(_____)			

5 4の病状・状態像等の具体的程度、症状、検査所見等

[検査所見：検査名，検査結果，検査時期]

6 生活能力の状態（保護的環境ではない場合を想定して判断する。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断する。）

(1) 現在の生活環境

入院・入所（施設名 _____）・在宅（ア単身・イ家族等と同居） その他（ _____ ）

(2) 日常生活能力の判定（該当するものを○で囲む）

- ① 適切な食事摂取
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ② 身の清潔保持，規則正しい生活
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ③ 金銭管理と買い物
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ④ 通院と服薬（要・不要）
自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ⑤ 他人との意思伝達・対人関係
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ⑥ 身の安全保持・危機対応
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ⑦ 社会的手続や公共施設の利用
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない
- ⑧ 趣味・娯楽への関心，文化的社会的活動への参加
適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない

(3) 日常生活能力の程度（該当する番号を選んで，どれか一つを○で囲む）

- ① 精神障害を認めるが，日常生活及び社会生活は普通にできる。
- ② 精神障害を認め，日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。
- ③ 精神障害を認め，日常生活に著しい制限を受けており，時に応じて援助を必要とする。
- ④ 精神障害を認め，日常生活に著しい制限を受けており，常時援助を必要とする。
- ⑤ 精神障害を認め，身の回りのことはほとんどできない。

7 6の具体的程度、状態

8 現在の障害福祉等のサービスの利用状況

（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）に規定する ア. 自立訓練（生活訓練）、イ. 共同生活援助（グループホーム）、ウ. 居宅介護（ホームヘルプ）、エ. その他の障害福祉サービス、オ. 訪問指導、カ. 生活保護の有無等）

9 自立支援医療(精神通院)の重度かつ継続に係る判定（自立支援医療を申請する場合にご記入ください）

（「重度かつ継続」該当かつ主たる精神障害がICDカテゴリーのF4～F9の場合は，診断する医師の略歴についてア・イ・ウのうち該当する項目に○印をつけること。）

A 該当 B 非該当 : ア 精神保健指定医 イ 精神科医（3年以上精神医療に従事）ウ その他の医師

上記のとおり診断します。

年 月 日

医療機関の名称

医療機関所在地

電話番号

診療科担当科名

医師氏名（署名）

判定会議 意見	該 当			非該当	保留	委員	備考
	1級	2級	3級				

* 医師氏名は，本人が手書きしない場合は，記名押印してください。
 * 用紙の大きさは，日本工業規格A4とすること。
 * 必要な事項については，空欄がないよう記載をお願いします。
 なお，審査判定上必要があるときは，宮城県又は仙台市から医療機関に照会をすることがあります。